

第3回浦昭二記念賞選考記

情報システム学会 浦昭二記念賞選定委員会 委員長 竹並 輝之

今年度の浦昭二記念賞は、例年と同じく7月初めに全学会員に表彰案件の推薦を依頼し、8月末に応募を締め切った。3件の推薦があり、浦昭二記念賞選定委員会で審査の結果、以下の1件を特別賞として表彰することを全会一致で決定した。10月の理事会で承認され、12月1日の第14回全国大会・研究発表大会の会場で伊藤重隆会長から西垣通氏に表彰状、表彰盾、金一封が手渡された。表彰理由は以下のとおりである。

特別賞「基礎情報学の創設による情報システム学確立への顕著な貢献」

西垣 通氏(東京大学名誉教授・東京経済大学教授・本学会会員)

西垣通氏は、基礎情報学を創設し、研究を進められたことにより、人間、社会、情報技術に一貫した統一的な情報概念を明らかにし、社会の構成を、オートポイエーシスをベースにした階層的自律コミュニケーションシステム(HACS)として整理、浦昭二先生の提唱された、世の中の仕組みを情報システムとして考察し、その本質を捉える人間中心の情報システム学に対して、確固とした理論的基礎を与えられた。情報システム学会では2014年、浦先生の定義にもとづく新たな体系として『新情報システム学序説』を編纂したが、西垣氏の基礎情報学の研究があって、はじめて実現したものである。

基礎情報学により、現象学における本質直観、KJ法、企業における知識創造、人間中心情報システムの構築、さらに、GAF Aと呼ばれている米国巨大IT企業の成長など、多様な人間と組織の情報行動が、いずれも情報システムプロセスとして説明可能となった。日本学術会議は2016年、情報学教育の参照基準に基礎情報学を採択した。

情報システム学会においては、西垣氏には2013年に情報システム学会常設の基礎情報学研究会主査に就任頂き、2018年までに、予定も含め23回研究会を開催、基礎情報学にもとづく情報システム学の新たな理論構築と基礎情報学をベースにした高校と大学の情報教育の刷新を検討して頂いている。また、情報システム学会のシンポジウム、HIS研究会等で、ネット社会、集合知、AIなど最新のテーマについてご講演、指針を示して頂き、さらに第14回全国大会でも特別講演をお願いしている。情報システム学および情報システム学会への貢献はきわめて多大であり、浦昭二記念賞特別賞として表彰したい。